

30年12月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成30年 12月1日～ 30年12月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は4社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
入荷動向	国産材	0.0	25.0	0.0
	外材	0.0	0.0	25.0
在庫動向	国産材	0.0	25.0	25.0
	外材	0.0	0.0	50.0

・国産材ラミナの入荷動向は12月の横ばいから1月は増加、2月は再び横ばいに。外材は12月、1月の横ばいから2月は増加に。

・国産材ラミナ在庫動向は12月横ばいから1月、2月は増加に。外材は12月、1月の横ばいから2月は増加に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/12月	31/1月	2月
国産材	0.0	25.0	25.0
欧州材	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
その他	—	—	—

国産材ラミナの購入価格動向は強含み。
欧州材は為替の影響で弱含みで推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・欧州材ラミナは入荷動向は、船の予定が順調で安定している。
・国産材ヒノキラミナ入荷動向は、12月も自社製材工場の稼働好調ということで、国産材ラミナの供給は抑え気味、一方、販売の方は11月から引き続き好調で集成材生産も好調に推移しており、ラミナ在庫のバランスも良くなってきたので、1月は若干購入を増やすつもり。**米ヒバ**は、当社の生産が上がらなかったため入荷を抑えて来たが、8月からは通常の月間1,200m3程度の入荷に戻した。12月以降も同様のペースで入荷していく予定。**国産材ヒノキラミナの在庫動向**は、12月は販売好調かつ生産好調に推移したことから、ラミナ在庫は若干減少し、これまで在庫過多であったことが漸く適正在庫水準に戻った。1月も販売好調の見通しで、生産も順調に推移することを見越し、売材ラミナの数量を少し増やす計画。在庫は現状くらいの数量で今後は推移させて行ければ理想。**米ヒバ集成製材**は、12月の生産と販売が好調に推移したことから、在庫はかなり少なくなった。1月はその分少し入荷を増やすように調整している。こちらもその後適正在庫水準で推移させていきたい。

(ラミナ価格動向)

- ・欧州ラミナは為替の分やや下がる。
- ・ヒノキラミナの価格動向は、7月西日本豪雨があり、ヒノキ原木入荷が非常に厳しく協力工場各社は値段を上げたいのだろうが、当社のラミナ在庫もそこまでひっ迫していないので、価格は据え置きで何とか購入させていただいている。欧州材は、輸入ラミナの話は情報が取れていないが、世界的な木材需要の高まりを受け、少なくともラミナ値段は安くはなっていないものと思われる。米ヒバは、米スギ原木の高騰により発生した代替需要により、アメリカ向けに米ヒバが買われ、米スギ価格に引っ張られるように米ヒバ原木価格も高騰した。しかし、2018年夏ごろから米スギ価格が落ち着いて来てから、アメリカ向けの米ヒバの代替需要がなくなり、米ヒバ原木価格は若干下がった。来年2月からようやくその価格が少し下がった丸太で製材したラミナが入って来て、ラミナコストが少し下がる見込み。

30年12月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
生産動向	国産材	0.0	25.0	0.0
	WW集成管柱	0.0	50.0	0.0
	RW集成平角	0.0	△ 25.0	△ 50.0
	米マツ集成平角	0.0	△ 50.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	25.0	0.0
	WW集成管柱	0.0	50.0	0.0
	RW集成平角	25.0	25.0	△ 25.0
	米マツ集成平角	0.0	50.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・構造用集成材の生産動向は国産材、WW集成管柱は12月の横ばいから1月は増加、2月は再び横ばいに。RW集成平角は12月の横ばいから1月、2月は減少に。米マツ集成平角は12月の横ばいから1月は減少、2月は再び横ばいに。

・出荷動向は国産材、WW集成管柱は12月の横ばいから1月は増加、2月は再び横ばいに。RW集成平角は12月、1月の増加から2月は減少に。米マツ集成平角は12月の横ばいから1月

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
スギ集成管柱	0.0	0.0	25.0	
ヒノキ集成柱	0.0	50.0	50.0	
ヒノキ集成土台	0.0	50.0	50.0	
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0	
WW集成管柱	0.0	50.0	50.0	
RW集成平角	0.0	0.0	25.0	
米マツ集成平角	0.0	50.0	0.0	
WW集成平角	—	—	—	
米ヒバ土台角	0.0	50.0	0.0	
カラマツ集成平角	—	—	—	

- ・スギ集成管柱の価格動向は保合。
- ・ヒノキ集成柱、集成土台ともやや強含み。
- ・カラマツ集成土台横ばい。
- ・WW集成管柱やや強含み。
- ・RW集成平角保合。
- ・米マツ集成平角保合。
- ・米ヒバ土台角保合。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

- ・生産動向はやや良好。出荷動向は年末・年始の荷動きが良好である。
- ・ヒノキ構造用集成材の生産動向は、11月は工場の設備一部更新したため生産が減少したが、12月はその遅れを取り戻すべく全力生産。生産・販売とも順調に推移した。1月も販売好調の見込みで引き続き全力増産体制を敷き、2月以降は年度末の端境期となるため、生産は調整される予定。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は「10月から少しずつ市況回復基調にあり」とのことで、メーカー各社は年内の生産は増加傾向で推移するのではないかと考えられる。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、11月頃から荷動きが多少回復して来たとの話も聞かれる。しかし、これまでの在庫を各メーカーまだ抱えているようで、増産に転じるまでの状況にはまだないのではないかと考えられる。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米マツ集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは米マツの丸太価格の値上がりでストップしたので、小康状態に落ち着いたのではないかと予想される。米ヒバ集成土台は、12月の生産・販売とも安定しており月産800m3の生産と同量の販売は出来ている。1月は米ヒバ集成材を比較的使用してくれる北海道・北陸地域が積雪で現場が止まるため、販売が鈍ることが予想され、その分若干生産は調整される見込み、余力はヒノキ集成材の生産に振り向ける。
- ・ヒノキ構造用集成材の出荷動向は、11月から出荷が増えて来た。弊社がスペックインしている大手建売系メーカーの建て方がピークを迎えた関係で出荷が伸びている。また一般からの引き合いも比較的活発。出荷は1月までは好調に推移する見込みだが2月以降は年度末端境期に突入することもあり、まだ動向は見えない。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は「10月から少しずつ市況回復基調にあり」とのことで、メーカー各社は年内の出荷は増加傾向で推移するのではないかと考えられる。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、11月は荷動きが多少回復して来たとの話も聞かれる年内の出荷は増加していくのではないかと予想する。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。米ヒバ集成土台は、12月の生産と販売も安定しており月産800m3の生産と同量の販売は出来ている。1月は米ヒバ集成材を比較的使用してくれる北海道地域や北陸地域が積雪で現場が止まるため、販売が鈍ることが予想され、その分出荷は調整される見込み。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・欧州材は為替の分やや下がる。

・**スギ集成管柱の出荷価格動向**は、当社生産品目ではないが、スギ集成管柱は12月、1月はスギ集成材を採用している大手分譲建売系ビルダーや大手住宅メーカーの建て方がピークを迎えたことから、引き合い好調とのことで、長らく在庫が重いような話も聞こえていたが、需給バランスは丁度良くなった模様、弱含み感も消えたのではないかと。 **ヒノキ集成柱**は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。 **ヒノキ集成土台**は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。 **カラマツ集成土台**は、当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、価格云々よりも原木の確保が急速に困難になりつつあり、生産や出荷量も限定されてきていると言う話を聞く。 **WW集成管柱**は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は「10月から少しずつ市況回復基調にあり」とのことで、11月～12月に掛けて多少値上げが出来た模様。ラミナコストは間違いなく上がっているもので、多少は値上げしてもらわないとサプライヤー各社は厳しいだろう。 **RW集成平角**は、ラミナコスト上昇に伴い製品販価63,000円/m3程度まで上昇したが、それ以降荷動き低下し販売苦戦。期待した秋需の盛り上がりもなく、完全に弱含み状態。原料のラミナコストは一方的に上昇しているため、国内サプライヤーは非常に苦しいポジションを強いられているものと推察する。相場も6万円は切る状況まで下がった模様。 **米マツ集成平角**は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米マツ集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは米マツの丸太価格の値上がりでストップしたので、製品への価格転嫁の話も今は落ち着いたのではないかと。 **米ヒバ集成土台**は、この一年間で最も値段が上がった並材製品と言える。この一年間苦しい値上げ交渉を続けて来たが、2018年1月を以てほぼ値上げの交渉が完了した。2018年4月からようやく全ての顧客に新単価が適用できるようになった。今後の価格については当面様子を見る。